

小金井市議会議員／情報公開こがねい

渡辺大三 週刊 NEWS



【会派NEWS】 2020(令和2)年2月25日号 週刊Vol.49
ご意見ご要望はお気軽に 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301
TEL 090-3345-6929 FAX 042-381-5074
watanabedaizou@gmail.com 公式サイト daizou.org

議員定数2減条例、否決

賛成10 反対13 市民の多数意思、活かされず



議員定数2減条例が否決された瞬間(最後列右から三人目、賛成の起立が渡辺大三)

2月19日、小金井市議会は本会議を開催し、小金井市議会議員(現在は24名)の定数を2減して22名とする条例案を、賛成10、反対13の僅差で否決しました。

同条例案は、①小金井市議会の議員定数が人口が類似する市に比べて多すぎる、②議員定数が多すぎると、新庁舎建設で床面積が増えるため、余計な経費が発生する、③市民サービス拡充の財源が必要である、などの理由で、昨年6月、情報公開こがねい、自民党信頼、公明党の3会派が共同提案したもの。

私が、共同提案した理由はいくつかありますが、特に重視したのは、人口が同じ水準の市よりも小金井市議会の議員定数が多いこと、また、非常に多くの市民が、議員定数が多いと認識しており、これ以上放置できないと考えたからです。

会派別議員別の賛否は以下の通りでした。

○賛成した10議員

情報公開こがねい(渡辺大三)／自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・清水)／公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)／改革連合(篠原)

×反対した13議員

みらいのこがねい(鈴木・村山・岸田・沖浦)／共産党(板倉・水上・たゆ)／こがおも(白井・水谷)／こがねい市民会議(齊藤)／生活者ネット(田頭)／市民カエル(片山)／緑つながる(坂井)

*五十嵐議長(自民党信頼)は採決に加わらない。

市民の多数意思は明白です

小金井市議会は2012年に市民アンケートを実施しました。2000人に送付し506通の回答がありました。回答率は25.3%で、おおむね市が行う各種アンケートと同程度に回答率でした。その結果によれば、小金井市議会の議員定数に関する市民の意見は、以下の通りでした。

Q 市議会議員の定数について、どう感じますか？

A 多い・・・45.5%

適当・・・19.6%

少ない・・・1.0%

わからない・・・31.2%

空欄その他・・・2.8%

Q 市議会の人数は何人が適当と思いますか？

(回答が多かった上位5位)

1位 20名・・・64人が回答

2位 15名・・・60人が回答

3位 12名・・・37人が回答

4位 10名・・・28人が回答

5位 18名・・・27人が回答

*現行定数の24名と回答した人は1名のみ

「多い」と回答した人が半数に迫っており、現行定数を「適当」とした人の2倍以上となっています。この声に応えないとするならば、いったい何のために税金を使って市民アンケートを実施したのでしょうか？。「聞いてみただけ」では、回答した方々に対しても失礼です。アンケートを実施した以上、なんらかの成果に結びつけていく努力が求められます。

人口類似市の定数を直視すべき

市議の中には、まるでアンケートで削減すべきと回答した市民の判断がいい加減なものであるかのごとき乱暴な主張を展開している人もいます。

しかし、多摩26市の中で、人口が11～12万人台の4市における議員定数は以下の通りです。

市名	人口	議員定数
小金井市	122,066人	24人
国分寺市	124,794人	22人
昭島市	113,504人	22人
東久留米市	116,929人	22人

「多すぎる」と感じている市民の判断は、妥当なものだと私は思います。

私は、本来、議員定数は、「雇い主」であると同時に「費用負担者」である市民が決めるべきものだと思います。議員は、議員定数に関しては「利害関係人」ですから、各議員が削減反対論を展開するのは自由だとしても、利害関係人の組み立てた理屈だという前提で聞かないと、判断を誤ります。

また、忘れてはならないのは、議員報酬も、市民サービスも、同じ財布(一般会計)から支出されるということです。議員が多すぎる⇒議員報酬総額が多すぎる⇒市民サービスへの財源が減る。ということです。

定数削減の話が出ると、いつも必ず報酬削減の話が出てきます。何十年も前からの「お定まりのパターン」です。不思議なのは、報酬削減の話をする議員は、議案提案権を行使して報酬削減条例案を出したことが全くないのです。つまり、本音は報酬削減をしたくないわけです。定数削減を潰したいので、定数削減の話が出たときだけ、報酬の話で「パフォーマンス」でぶちあげるだけなのです。

世論で議会を包囲しましょう

条例案の否決を踏まえて、私ども提案会派3会派で協議を行いました。その結果、これで終わりとすることなく、引き続き削減に向けて取り組んでいく方向が確認されました。

今後、詳細は詰めてまいります。削減を求める請願書の署名運動の実施なども検討しております。

今回反対した議員の中には「何が何でも削減反対」の議員と、「場合によっては削減賛成もありえる」議員が混在していると思われます。

市民世論で議会を包囲し、来年3月の市議選に間に合うように、議員定数削減条例の「逆転可決」をめざしてまいります。

「脱ムダ」で市政を変える！

■渡辺大三略歴 1966岩手県生まれ。秋田県、宮城県、山形県を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井第一中学校、東京都立小金井北高校、中央大学法学部卒業。株式会社河北新報社で新聞記者。その後、衆議院議員秘書を経て、26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選)。

現在⇒小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京都の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。